

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合により、本文の一部を改変しています)

子どもたちの素朴な質問に専門家がわかりやすく答えるラジオ番組のことである。ある時、幼稚園児の男の子から、こんな質問があった。

「どうして、男の子と女の子がいるの？」

この、あまりに本質的であまりに素朴な質問の前に、専門家の先生方は困り果てていた。「X染色体とY染色体って、わかるかな」と一生懸命説明していたが、幼稚園児にそんなことがわかるはずもない。

ちなみに、「どうして」と聞かれた場合には、ふたつの答えがある。ひとつは「HOW?」(どのように)である。どのようにして男性と女性ができるのかという理由は、X染色体とY染色体で説明できる。もうひとつは「WHY?」(なぜ)である。なぜ、人間には男と女がいるのか。男と女が分かれていることに、どのような意味があるのか。

男の子の質問は、もちろん後者である。

しかし、なぜ世の中には男と女がいて、オスとメスがあるのか。私たち大人があたりまえと思っていることの中に、実は大いなる謎が潜んでいる。幼い子どもたちの「なぜ?」や「どうして?」は他愛もないものに聞こえるが、時に本質を突く。その素朴な疑問のなかに、科学の本質が存在するのだ。

男の子は、何気なく疑問に思っただけなのかもしれないが、これは難問である。

空白があつてはいけなはずのラジオに空白の時間が続き、先生方の答えはしどろもどろ。男の子も電話の向こうで困惑している様子がラジオから伝わってくる。気まずい雰囲気時間が過ぎ、スタジオで電話を切ろうとしたその時、アシスタントのお姉さんが、男の子に語りかけた。

「○○君は、男の子だけで遊ぶのと、男の子と女の子で一緒に遊ぶのは、どちらが楽しいかな?」

「男の子と女の子で遊ぶほうが楽しい……」

「そうだよね。だから、きっと男の子と女の子がいるんだね」

すると、男の子ははじけるような声で「うん」と返事をして、電話を切った。

私は、お姉さんの名回答に唸った。

【 中 略 】

地球に生命が誕生したのは38億年前のことである。もちろん、その頃に誕生した単細胞生物には、雌雄の区別はない。単純に細胞分裂をして増えていたのである。

オスとメスがいるのは、子孫を残すためだと思うかもしれないが、別にオスとメスがなくても、子孫を残すことはできる。実際に、単細胞生物の多くは、細胞分裂で増えていく。細胞分裂をして増殖していくということは、元の個体と同じ性質を持った個体が、増え続けていくということである。

しかし、これには問題がある。細胞分裂をして遺伝子をコピーすることは、たとえば原本の文章を写して書いていくようなもの。書いていくうちに書きまちがえたり、写しまちがえたりすることもあるだろう。

同じように、遺伝子の情報もコピーを繰り返していくうちに、コピーミスが起こる。これが、突然変異である。コピーミスは起こらないほうがいいが、コピーミスがあることによって、生物は性質を変化させることができる。進化もまた、このようなコピーミスによって起こるのである。

ただし、原本を写しまちがえて、元の文章よりも良くなることは稀だろう。また、コピー機でコピーを繰り返していけば、印刷も薄くなつていく。同じように、遺伝子もコピーを繰り返すうちに、遺伝子の情報が失われたり、性質が衰退したりすることが起こる。最悪の場合、生存したいが危ぶまれる。

それでは、遺伝子を維持したり、欠損した遺伝子を修復したりするにはどうしたらいいのか。

コピーを続けるのには限界があるし、壊れたものを元に戻すことは簡単ではない。衰えたり、失われたりすることなく維持し続けようとするれば、一度壊して新しく作り変えるしかない。しかし、新しく作り変えようとしても、古い材料ばかりで新しい材料がなければ、作り直すことはできない。

そこで、生物は他の個体と遺伝子を交換することで、新たな材料を手にして、遺伝子を作り変えようとしたのである。新たに遺伝子を作れば、元の情報をコピーするだけでなく、新たな発展が可能になるかもしれない。単純にコピーを繰り返しても、コピーミスによる突然変異は起こるが、他の個体と遺伝子を交換すれば、確実に変化をすることができるのだ。遺伝子の交換は、新しく生まれ変わっていくために、きわめて有効な手段だったのである。

生物にとつても大切なことは、自らの遺伝子を次の世代へ伝えることである。自分のコピーであれば、自分の遺伝子を100パーセント子孫に残すことができる。しかし、他の個体と遺伝子を交換する場合には、自分の遺伝子と相手の遺伝子を半分ずつ持ち寄って、次の世代の子孫に残すことになる。

そのため、自分の遺伝子は50パーセントしか子孫に残すことができない。遺伝子を維持し、欠損した遺伝子を修復するためとはいえ、自分の遺伝子を残すという目的から考えれば、他の個体と交わることは得な方法とは言えない。

それなのに、ほとんどの生物は、オスとメスが交わって子孫を残している。ということは、他の個体と交わることは、残せる遺伝子が半分になってしまうことと比べても、利点があるはずである。

それでは、他の個体と交わることの利点は何か。

他の個体と遺伝子を交換する利点のひとつは、「多様性」を生み出すことである。もし、元の個体がコピーをし続けると、元の個体と同じ性質の個体が、無限に増えていくだけだ。この場合、増殖した個体はすべて、元の個体と同じ性質である。そのため、環境が変化すると、対応できずにすべての個体がいつせいに死滅してしまう恐れがある。

いっぽう、さまざまな性質の子孫がいれば、環境が変化しても、いずれかの子孫は生き残る可能性がある。だから、同じ

性質の個体ばかりを増やしていくよりも、性質の異なるバラエティ豊かな子孫を残していったほうが、生物種が生き残っていく点では有利なのだ。

それでは、どのようにすれば、自分とは異なる性質を持つ子孫を増やすことができるのだろうか。自分の遺伝子だけで子孫を作れば、自分と同じか、あるいは自分と似た性質を持つ子孫しか作れない。自分と異なる子孫を作ろうと思えば、どうしても他者から遺伝子をもらわなければならない。つまり、遺伝子を交換するのだ。

たとえば、

A

。しかし、

B

。そこで、

C

。こうして、

D

のである。

たとえば、人脈を広げようと異業種交流会に参加したとしよう。

会場に行けば、皆スーツにネクタイ姿。業種も仕事もわからない。張り切って名刺を交換してみたが、集まった名刺を見ると、同じ業界の人ばかりだった。これでは、業界のパーティーに参加したのと変わらない。

それならば、見た目でわかるようにしてはどうだろう。飲食店関係は赤いリボンをつける。建築関係は黄色、IT関係は緑色というように、リボンの色を変えてみる。そして、違う色のリボンの人と名刺を交換するルールにするのである。そうすれば、異業種間で名刺を交換するという目的を、効率よく果たすことができるだろう。

遺伝子の交換も同じである。

せっかく、個体どうしが出会って遺伝子を交換しても、相手が自分と似た遺伝子を持つ個体では交換した意味がない。でさるだけ、自分にはない性質の遺伝子を持つ個体と、遺伝子を交換したい。そのために、ゾウリムシの場合、いくつかの遺伝子の異なるグループがあり、グループの違う個体とだけ接合して遺伝子を交換するという。

オスとメスという生物界に存在するふたつのグループも、同じである。

個体をオスというグループとメスというグループに分けて、グループ間でのみ遺伝子を交換できるようにすれば、効率よ

く遺伝子を交換することができる。オスとメスはこうして作られたのである。オスとメスが存在することによって、多様性が作られる。そして、オスとメスという違ったグループを作ることによって、遺伝子の交換がスムーズにできるのだ。

先述のように、アシスタントのお姉さんは、男と女がいる理由を「楽しい」と表現した。これは、的を射た説明である。男の子は女の子という別のグループに惹かれるから、女の子と遊ぶと楽しい。女の子は男の子という別のグループと遊ぶと楽しい。ませた子は、逆に異性と遊ぶのを嫌がるかもしれないが、それだけ異性を気にしているということである。そして、男の子と女の子がいることで多様性は保たれ、さまざまな友達ができる。

生物の世界は性別ができたことによつて、よりにぎやかになり、そして「楽しく」なったのである。このことを、幼稚園児に納得させた、彼女の答えはまさに秀逸である。

(二〇一六年 稲垣 栄洋 『オスとメスはどちらが得か?』 祥伝社新書)

〔注〕 * X染色体とY染色体：細胞内の遺伝情報をもつDNAと呼ばれる巨大な糸状の分子のこと。XとYはその種類。

* 他愛もない：しつかりとした考えがない。

* 唸った：ひどく感心した。

* 単細胞生物：一個の細胞からなっている生き物。

* 雌雄：メスとオス。

* IT：情報技術。コンピュータやインターネットなどに関連する技術のこと。

* 惹かれる：(心が)引きつけられる。魅力を感じる。

* 秀逸：他のものよりぬきんでてすぐれていること。また、そのさま。

問一 本文には次の一文が抜けています。どこに入れたらよいですか。この文の入る直後の五字を抜き出さない。
ましてや、小さな男の子を納得させられるような説明などできるはずもない。

問二 傍線部1「その頃に誕生した単細胞生物には、雌雄の区別はない。単純に細胞分裂をして増えていたのである」とありますが、「細胞分裂」についての説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 細胞が分裂するということは、細胞のもともとの機能を細かく分けてしまうことであり、そのようなことを繰り返していけば、個体の生存に悪影響を及ぼす。

イ 細胞分裂は、本や書類をコピー機で複数回コピーをすることと似ているので、何度も回数を重ねると、ほぼ間違いなく最初とは異なる遺伝子に変化する。

ウ 何回も細胞分裂を行って遺伝子をコピーしてゆく中で、その遺伝子のもつ重要な要素がなくなってしまうたり、良い部分が薄れていたりすることがある。

エ 失われた生命や壊れてしまった身体をよみがえらせることは簡単ではないので、何度も細胞を分裂させてそのための材料を作ることが必要である。

問三 傍線部2「原本を写しまちがえて、元の文章よりも良くなる」とありますが、これはどのようなことをたとえていますか。文中から二字で抜き出して答えなさい。

問 四 傍線部3「生物は他の個体と遺伝子を交換することで、新たな材料を手にして、遺伝子を作り変えようとしたのである」について、次の問いに答えなさい。

- ① 他の個体と遺伝子を交換することの欠点を、文中の言葉を使って答えなさい。
- ② ①のような欠点があるにもかかわらず、生物が他の個体と遺伝子を交換して子孫を残すのはどうしてですか。その理由を説明した次の文の I・II に入る言葉を、文中の言葉を使って答えなさい。

他の個体と遺伝子を交換することで I して、環境の変化によって II ことを防ぐようにするため。

問 五 A D に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア ゾウリムシは2匹の個体が出会うと、体をくっつけて、遺伝子を交換する
イ 遺伝子を変化させる
ウ 単細胞生物のゾウリムシは、ふだんは細胞分裂をして増えていく
エ 自分のコピーしか作れない

問 六 傍線部4「張り切つてく変わらない」とありますが、これはどのようなことをたとえていますか。文中から一文で抜き出し、初めの五字を答えなさい。

問 七 この文章を読んで、四人の小学生が次のような話し合いをしました。これを読んで、後の問いに答えなさい。

Aくん…筆者はラジオ番組のアシスタントのお姉さんの答えについて感心しているみたいだね。専門家の先生たちがどうやって答えているのか困っている質問に、小さい子にもわかるようなたとえ話を使って説明しているから、お姉さんはすごく機転のきく人だと思った。

Bさん…男の子と女の子という、違った特徴を持つ集団に分かれて、自分がない特徴を持った相手に魅力を感じるということは、アシスタントのお姉さんが説明していた「楽しい」ということに当たるんじゃないかな。

Cさん…私たちで言えば、はじめは話したこともない友だちの友だちとも、一緒に遊んだら楽しくなって仲良くなれるのと同じように、ある個体同士が遺伝子交換をすると、また別の個体とも遺伝子交換したくなるってことでしょうか。

Dくん…このことを深く考えると、自分がない特徴を持った相手に魅力を感じることで、遺伝子交換がしやすくなって、自分の子孫を生き残らせることにつながるのかもしれないね。

- ① 発言内容が本文で述べられている内容と異なっている人物の名前を一人答えなさい。
- ② テーマについて、自分の感想を述べている人物の名前を一人答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合により、本文の一部を改変しています)

野球部のみんなが桜田をキャプテンに選出した。

1 キャプテンになりそこねたレフトで四番バッターの笠原は顔を真っ赤にしてみんなをにらみつけた。キャプテンに立候補した笠原は、もうキャプテンになつても同然と高をくくり、余裕の笑いをみせていた。身体がでかく腕力が自慢の笠原は、暴力をちらつかせて自分の言動を押しとおしてしまふ恐怖支配崇拝主義者だ。なにか気に入らないことがあるとすぐに暴力で話をつけたがる。だから誰も面と向かつては笠原に逆らわなかつた。だけど結果はたつたの一票だつた。怒り狂つた笠原はキャプテン選出の日から、野球の練習が終わるとぼくたち野球部員を一人ずつ片っ端から血祭りにあげた。「ジャイアント馬場がヘッドロックです！」とかなんとかふさげる振りをして誰かをつかまえ、そのまま相手が泣きだすまでやつつけては溜飲をさげた。笠原は全員を血祭りにあげたけど、ただ一人、キャッチャーの東井だけにはちよつかいをださなかつた。東井は一年生のときに札幌から転校してきた。身体は笠原と同じぐらい大きく、Iした性分で都会育ちのあか抜けた雰囲気を持っている。いいたいことを II いうタイプだつた。腕つぶしが強いだけのあか抜けない笠原は、腕つぶしが強くて弁もたつ東井にコンプレックスがあつたのかもしれない。タイプはちがうけど二人は互いの力量を認めていて、ソビエトとアメリカみたい自制心を働かせて直接つかみあいになることは避けていた。一八〇センチもある二人はぼくたちからみればまるで恐竜のようにでかかつた。恐竜のケンカとなれば、少しのケガだけではすまなくなるのは目にみえている。だから二人は面と向かつてやりあふことは避けていたのだ。

キャプテンになり損ねて痛癢をおこした笠原は、ほとんどの野球部員を血祭りにあげて暴れ狂うと、



* 中川先生は顔をしかめた。

「お前たちそれでいいのか？ 二日もだまつて練習を休まれてなにもいわなくていいのか？ みんなのチームだろうが。笠原一人が好き勝手してもいいチームなのか？ 四番バッターだから無断で練習を休んでもいいのか？ 明日練習にきたらな」というつもりだ。どうなんだ、桜田。キャプテンだろうが」

「あの、いや、やつぱり、笠原は四番バッターだし、ちゃんと練習にでてくれといひます」桜田はしどろもどろに答えた。「中心選手だつたら、チームが必要とする選手だつたら、みんなできめた練習をだまつて休んだとしても、ちゃんと練習にでてくれてお願いするっていうのか？ 勝つためにはお前たちをなめてかかつているやつでも必要なのか？ そんなチームで野球やつておもしろいか？ みんなも桜田と同じ意見なのか？ そうだとしたら情けないやつらだぞ、お前らは。やる気がなかつたら野球部を辞めると笠原にいつてこい！」中川先生はぼくたちを軽蔑するようにみまわした。

2 ずばりと道理を口にしたので、さすがに大人のいうことはちがうと大いに中川先生をみなおした。さつそく三年生だけが自転車で笠原の家にでむいた。農作業の手伝いで家にいないかもしれないと思つたけど、笠原は家にいた。部屋でプラモデルを作っていると母親が笠原を呼びにいった。

「なんだよ？」

3 玄関にでてきた笠原はふてふてしくニヤニヤ笑つた。バツの悪そうな笑いではない。

「野球部のことであつて話があつてきたんだ。俺たちのことだから外で話そうぜ」

と東井がいい、笠原が外にでてきて東井がぼくたちの考えを伝えた。野球をやる気があるのかないのか、あるのなら休むときはちゃんと休む理由をキャプテンにいえ、やる気がないのなら部を辞めろ、と。笠原は一瞬うろたえたような表情をみせたけど、すぐに怒り狂つたものすごい形相に変わった。ぼくたちをにらみまわして縮みあがらせようとした。ぼくたちはひるまなかつた。全員がひとつになつていたので恐怖心はわかかなかつたのだ。

「どうなんだ」

東井は真つ直ぐに笠原と向かいあつていった。二頭の恐竜は火花をちらしてにらみあつた。ほんの短い時間だったけど、重苦しい、危険が充滿した長い時間に感じられた。どっちも一步もひかない構えだ。東井のうしろにはぼくたち三年生が全員いたけど、東井も笠原もぼくたちは眼中にないといつたようににらみあっている。あまりの迫力に、ぼくたちの口は接着剤でくっつけられたようにピタリと閉じられたままだ。

「イ、イ、いっしょに、ヤ、野球やろうぜ」

ふいに輪島のどもり声が二人の間に割つて入つたので、ぼくたちはⅢして輪島をみた。輪島のやつが野球部のことで自分の意見を述べるなどついぞなかったことだ。なにをいいたすのかと、笠原と東井も輪島をみつめた。

「オ、オ、俺は、シ、試合にでられないと思っけどよ、ミ、みんなで、ケ、県大会にいつて、ユ、ユ、優勝したいんだ。ヤ、辞めて、ホ、ほしくないんだ。ミ、ミ、みんなも、ソ、そうなんだ。イ、イ、いっしょにやりたくて、キ、きたんだ。イ、イ、いっしょに、ヤ、野球やろうぜ」

輪島がこのことをいわなかったら、ぼくたちの野球部は空中分解していたにちがいない。輪島の言葉は、俺たちはみんな野球が大好きな仲間じゃないか、という強い大きなさびとなつて、笠原とぼくたちをつないだ。ぼくたちの緊張がとけていった。全員の目つきがおだやかになつていった。

それでもこの出来事は笠原にとつてはものすごい屈辱だった。怒りをこらえて顔が真つ赤になつた。

「ちよつと熱っぽくて調子が悪かつただけだよ。熱がさがつたら練習にでるよ。わかつたらさつさと帰れ！」笠原は捨てぜリフを吐き、玄關に入つて乱暴にドアを閉めた。

帰り道、ぼくは自転車を走らせながらうれしくてしかたがなかつた。笠原が戻ってくることになつてⅣしたけれど、そのことがうれしかったのではない。輪島のことが無性にうれしかった。補欠の補欠だけど、輪島は立派な野球部員だとみ

んなが認めた日だった。

二〇〇一年 川上 健一『翼はいつまでも』集英社

〔注〕*血祭りにあげた：相手をひどい目にあわせることのとえ。

*ジャイアント馬場がヘッドロック：「ジャイアント馬場」はプロレスラー。「ヘッドロック」は技の名前。

*溜飲をさげた：気分をすっきりさせた。

*弁もたつ：話すことがうまいこと。

*コンプレックス：自分が他より劣つているという感情。劣等感。

*ソビエト：一九九一年まで存在した国家「ソビエト社会主義共和国連邦」のこと。第二次世界大戦後、ソビエトを中心とする国々は、アメリカを中心とする国々と直接的に武力を用いず、激しく対立した。

*癩癩をおこした：他愛ないことで怒るさま。

*中川先生：野球部の管理・指導を担当している教員。

*くさび：二つのものを固くつなぎ合わせるもの。

問一

Ⅰ

Ⅳ

に入る言葉として最も適当なものを、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア びっくり イ はっきり ウ ほつと エ さびびり

問 二 二重傍線部 a・b の語句の意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a 高をくくり

ア 信じ込んで イ 見くびって ウ えらそうにして エ 勘違いして

b バツの悪そうな

ア 気まずそうな イ 気弱そうな ウ 恥ずかしそうな エ 悲しそうな

問 三 傍線部 1「キャプテンになりそこねたレフトで四番バッターの笠原は顔を真っ赤にしてみんなをにらみつけた」とありますが、この時の笠原の様子を説明したものととして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 他の部員たちは、これまで自分に合わせていただけだったことに初めて気づき、本心ではどう思っているのかを全員に問いただすために、激しくつめよっている。

イ 自らの言動に反論する部員は一人もいなかったため、必ずキャプテンになれると思っていたのに、予想に反した結果になってしまい、恥ずかしさのためにいたたまれなくなっている。

ウ これまで腕力に物を言わせて従わせてきた他の部員たちが、全員そろって自分をキャプテンにしたいという思いを表明したことに対して、怒りをあらわにしている。

エ 自分こそキャプテンにふさわしいと思っていたのに、だれも賛同してくれなかったことに失望し、自分に投票しなかった他の部員たちといっしょにやっつけていく自信を失っている。

問 四 X には、どのような言葉が入りますか。次のア～エを、正しい順序で並べかえなさい。

ア 土曜日の午後の練習に姿をみせなかった。

イ 桜田は笠原が昨日の練習にもこなかったし、今日もどうして休んだのかわからないと答えた。

ウ 翌日の日曜日の練習にもやっつけてこなかった。

エ 宿直だった中川先生が練習の終わりにグラウンドに顔をだし、笠原はどうした？ とキャプテンの桜田にきいた。

問 五 傍線部 2「ずばりと道理を口にした」とありますが、中川先生が口にした「道理」とはどのようなことですか。それを説明したものとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア チームみんなで決めたことは例外なく全員守るべきであり、チーム全員がお互いを尊重しながら練習に取り組むべきだということ。

イ 何よりルールを守ることを重んじ、ルール違反した者をすぐに排除することで、チームの緊張感を保つべきだということ。

ウ 野球部において最も強い権限はキャプテンにあるので、キャプテンの決めたことに他の部員は絶対に従うべきだということ。

エ ルールや練習を軽んじ、他の部員たちを見下すような選手が試合に出て勝ったとしても、それを喜ぶべきではないということ。

問 六 傍線部3「玄関にでてきた笠原はふてぶてしくニヤニヤ笑った」とありますが、笠原は東井たちが何をしに来たと思っただけですか。本文の内容にそって答えなさい。

問 七 傍線部4「東井は真つ直ぐに笠原に向かいあつていった」とありますが、この場面での笠原と、東井以外の三年生の部員の様子について説明したものと最も適当なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 笠原は、東井の言うことを理解しつつも、その挑発的な物言いに立腹している。一方、東井以外の三年生たちは、黙って二人の様子をうかがうことしかできず、そんな自分たちをふがいないと思っている。

イ 笠原は、東井から予想外の話を聞かされ、はじめは動揺したが、すぐにいつもの調子を取り戻し、反発をあらわにしている。一方、東井以外の三年生たちは、二人の張りつめた雰囲気にならなげ、かたずを飲んで見守っている。

ウ 笠原は、自分を無理やり野球部から追い出そうとしている東井に対して抵抗しようと試みている。一方、東井以外の三年生たちは、これからのような展開になるのか、かたずを飲んで見守っている。

エ 笠原は、東井から聞いた他の部員たちの気持ちに衝撃を受け、その事実を認められずにいる。一方、東井以外の三年生たちは、東井だけに大変な役を押しつけてしまったことを後ろめたく思っている。

問 八 傍線部5「この出来事は笠原にとってはすごい屈辱だった」とありますが、それはどうしてですか。その理由として最も適当なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 腕力のある自分に逆らう者はいないと信じていたにもかかわらず、輪島の言葉によって、それが自分の勝手な思い込みであることが明らかになってしまったから。

イ 先生だけでなく、試合に出ない補欠の輪島までもが声を上げたことで、自分の軽率な行動がチーム全体を揺るがす大問題に発展していることに気づかされたから。

ウ 自分が挑発したせいで東井と対立する事態が起こったのに、輪島だけがそんな自分を責めず、かばい続けてくれたおかげで、野球を続けられることになったから。

エ 四番バッターで野球部の中心選手でもある自分が、補欠の輪島をはじめ、下に見ていたチームメイトに、チームに戻るきっかけを作ってもらったことになってしまったから。

問 九 傍線部6「補欠の補欠だけど、輪島は立派な野球部員だとみんなが認めた」とありますが、「輪島」はどのような点で「立派な野球部員」だと認められたのですか。文中の言葉を使って説明しなさい。

三

次の各問いに答えなさい。

問一 次の文には慣用句が用いられています。下の意味を参考にして、にあてはまる動物の名前を書きなさい。
(ひらがなで答えてもかまいません。)

につままれる (意外なことが起こってぼうぜんとする。)

問二 次の俳句は、どの季節の風物を詠んだものですか。季節を漢字で答えなさい。

よろよろと 棹さかがのぼりて 柿かき挟はさむ 高浜たかはま虚まき子よし

問三 次の文の傍線部は言葉の使い方がまちがっています。傍線部全体を正しい形に直しなさい。

勉強と遊びのけじめを正すよう心がける。

問四 次の文で――部が直接かかっている部分を、ア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

釣つりに ア 行いったら イ たくさんの ウ 魚うが エ 釣つれたので、父ちちは オ よろこんだ。

問五 次のことわざの意味として最も適当なものを、ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
「二寸の虫にも五分の魂たましい」

- ア どんなに小さくて弱い者でも、それなりの考えや意地があるということ。
- イ どれほどの悪人であったとしても、少しは反省する心を持っているということ。
- ウ 役に立たないものに見えても、実際に使ってみないと結果はわからないということ。
- エ 外見があまり良くないものであっても、中身はすばらしいということ。

